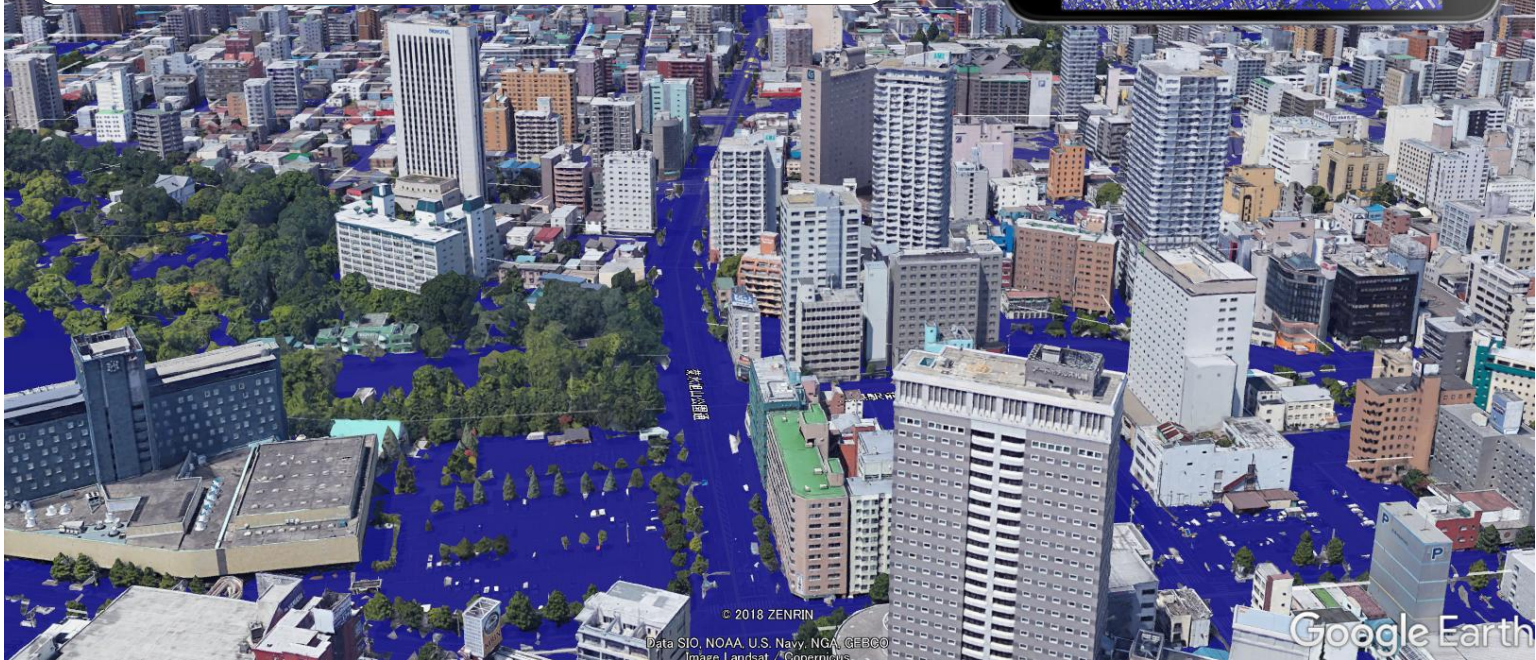


3D浸水ハザードマップ作成技術

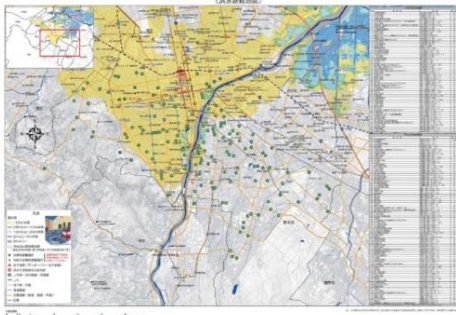
研究背景

- 近年、「想定外」や「経験したことが無い」と呼ばれる水害が増加傾向にあります。しかし、ハザードマップの内容まで理解している住民は多くない状況にあります。
- そこで、想定される浸水深を直観的に把握できるようにするため、Google EarthやGoogle Street Viewを活用した「**理解しやすく利用しやすいハザードマップ**」を提案します。

スマホ + GPS + Google Earth

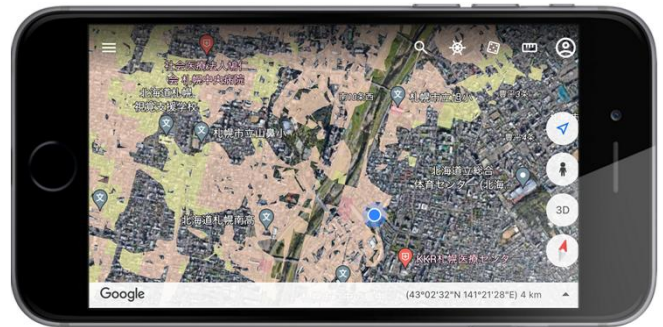


■ 従来のハザードマップの課題



- ✓ 土地勘がないと理解するのに時間を要する。
- ✓ 視覚的に浸水リスクを実感できない。
- ✓ 外国人の方（居住者、旅行者）には理解困難。
- ✓ 作成費用がそれなりにかかる。
- ✓ 避難所情報が更新されるたびに、マップを作成し直すことが費用の面から難しい。
- ✓ マップを配布しただけでは避難しない住民の方も多く、防災講座の開催等の様々な工夫が必要

■ 3D浸水ハザードマップのメリット



- ✓ 知りたい場所の想定される**浸水深**を、周辺の建物との比較により、**直感的に把握**できる！
- ✓ **旅行者や外国人**にもわかりやすい！（Google Earthを用いているため、**外国語表記**も可能）
- ✓ 寒地河川チームHPからダウンロードできるマップの作成ソフトやマニュアルと、Google Earthを利用すれば**無料**で作成可能！
- ✓ 避難所情報の変更に伴う**マップの更新作業**が**容易**で、役場職員の直営対応が可能！
- ✓ 学校や町内会等での**防災教育**にも活用可能！



表示例（左図）



マニュアル・ソフト